

# 豊かな心を持ち、よりよく生きようとする児童を育てる道徳教育 ～体験活動等との関連を図った心に響く道徳の時間の工夫～

足利市立北郷小学校

## I 研究の概要

### 1 研究主題設定の理由

児童の道徳性の発達には、児童を取り巻く社会の影響を大きく受ける。特に、今日の変動の激しい社会において、社会全体のモラルの低下や自然体験、社会体験などの体験の不足など、児童の自然な道徳性の発達を阻害している現象も多く指摘されている。このような中で、学校における道徳教育は、家庭や社会との連携を図りながら、児童一人一人の道徳的自覚を促し、自主性をはぐくむ中で夢や希望をもって未来を拓き、人間としてよりよく生きていく道徳的実践力の育成を図ることが大切である。

本校では、「豊かな心の育成」を学校目標の一つにおき、他人を思いやり、自他の生命を尊重するとともに、最後までやり通すことのできる児童の育成を図るために、体験活動等を多く取り入れている。その中には、平成3年から行われている足利中央養護学校との交流、児童会の縦割り班活動「レッツ5」、福祉体験をはじめとする多様な体験活動がある。それに加えて、日常の生活など全教育活動の中で様々な体験活動等が継続的に行われている。子どもたちは、このような貴重な体験活動等を通して、様々な道徳的価値にふれ、感じ、考え、心を動かしている。その心の動きと道徳の時間における指導とを関連させ、補充・深化・統合させることで、子どもたちの心により響く道徳の授業の展開を図っていくことが大切であると考え。本校の児童は、体験活動には興味、関心を持ち意欲的に取り組んでいるが、相手に対する思いやりや自己抑制力などにおいて、やや不足している面が見られる。そのため、様々な体験活動等と道徳の時間を関連させることで、心の耕しをしていくことが必要である。

そこで、既存の体験活動等を生かし見直ししながら、様々な体験活動等と関連を図った道徳の時間の指導を工夫することで、内面に根ざした道徳性の育成が図られ、豊かな心を持ちよりよく生きようとする児童を育てることができると考え本主題を設定した。

## 2 研究主題の受けとめと具体化

### (1) 研究主題の受けとめ

#### ① 「豊かな心をもつ」とは

美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心、自己抑制力、責任感、他者との共生や異質なものへの寛容などの心を身に付けた状態であるにとらえる。体験活動等を通して、人や動植物などに様々な思いを感じ、思いをふくらませながら、それらの道徳的価値について考えることを豊かな心をもつにとらえる。

#### ② 「よりよく生きようとする」とは

自分の生き方を振り返り、主体的に問題を解決しながら、豊かな心を持ち、自分自身の喜び、痛み、悲しみ、願いに気づき、自分のよさを自覚したり、相手のよさを認めたりする中で、人間として生きていくうえで大切にすべきことを学び、身に付けていくことにとらえる。体験活

動等と道徳の時間を関連させることで、道徳的实践力を高めたい。

③ 副主題「体験活動等との関連を図った」とは

道徳教育において体験活動等は、道徳性の育成の基盤となるものである。実際に子どもが体験し、その体験活動等を道徳の時間に生かすことで、子どもたちが接する対象を身近に感じ、共感を得るような心に響く授業の展開が期待できる。様々な体験活動等の中から教育的ねらいをもって、意図的・計画的に行う活動を体験活動としてとらえる。本校では、各教科や特別活動、総合的な学習の時間の中などで積極的に体験活動等を行うとともに、地域で行われる様々な活動への参加も呼びかけている。また、学校生活の中での様々な日常体験も子どもたちの心を動かす貴重な体験である。このような体験活動等を生かすことは、子どもたちが道徳的価値について自分とのかかわりでとらえながら考えるのに有効である。

また、体験活動等の事前や事後において、活動の道徳的価値を意識化し、実践力をはぐくむことができる指導の工夫をしていくことも関連を図ることととらえる。

④ 「心に響く」とは

道徳の資料を通して、道徳的指導内容が子どもの心の奥底にあるよさに気付かせ、よりよく生きようとする心を覚醒することである。道徳の時間と、他の教育活動や日常生活に結び付けて広がることである。具体的には、心が動くこと、強く感動すること、心を揺さぶられること、深い感銘があること、心に葛藤があること、心に訴えがあることととらえる。

(2) 具体化

研究を進めるにあたり、以下に示す内容を中心に研究を進め、「豊かな心を持ち、よりよく生きようとする児童を育てる道徳教育」の実現を図りたいと考える。

- ・体験活動等を生かした道徳の授業の工夫と実践
- ・体験活動等と道徳の時間における指導とを関連付ける指導計画
- ・道徳的実践力育成のためのあいさつ運動等の計画
- ・家庭や地域社会との連携の観点からの道徳の授業の公開と啓発
- ・「心のノート」の効果的活用



児童会主催「なかよしランドにレッツ郷」



親子福祉体験

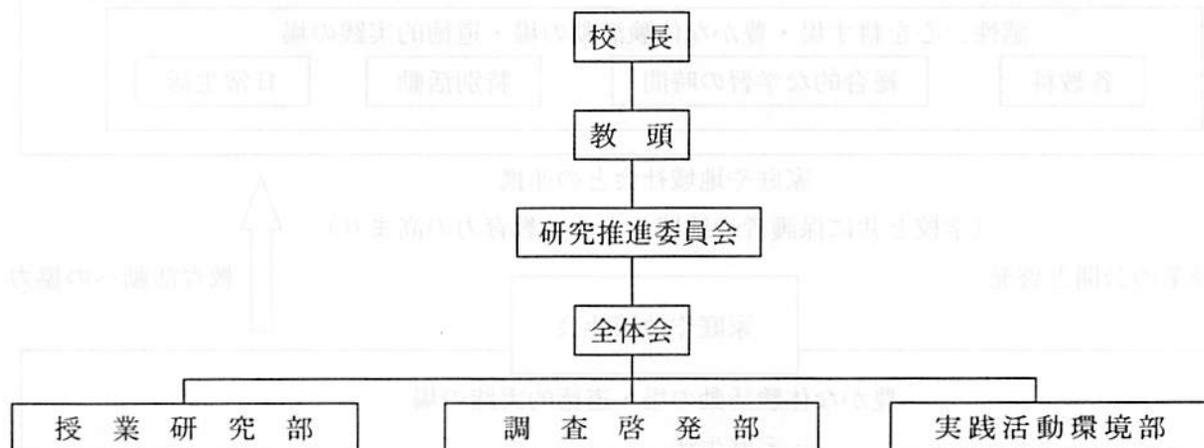
### 3 研究の仮説

子どもの体験活動等とのかかわりの中で、子どもの心に響く道徳の授業が展開されると、自分をより高い価値に向けてそうありたいと意欲をもつ児童を育てていくことができるであろう。

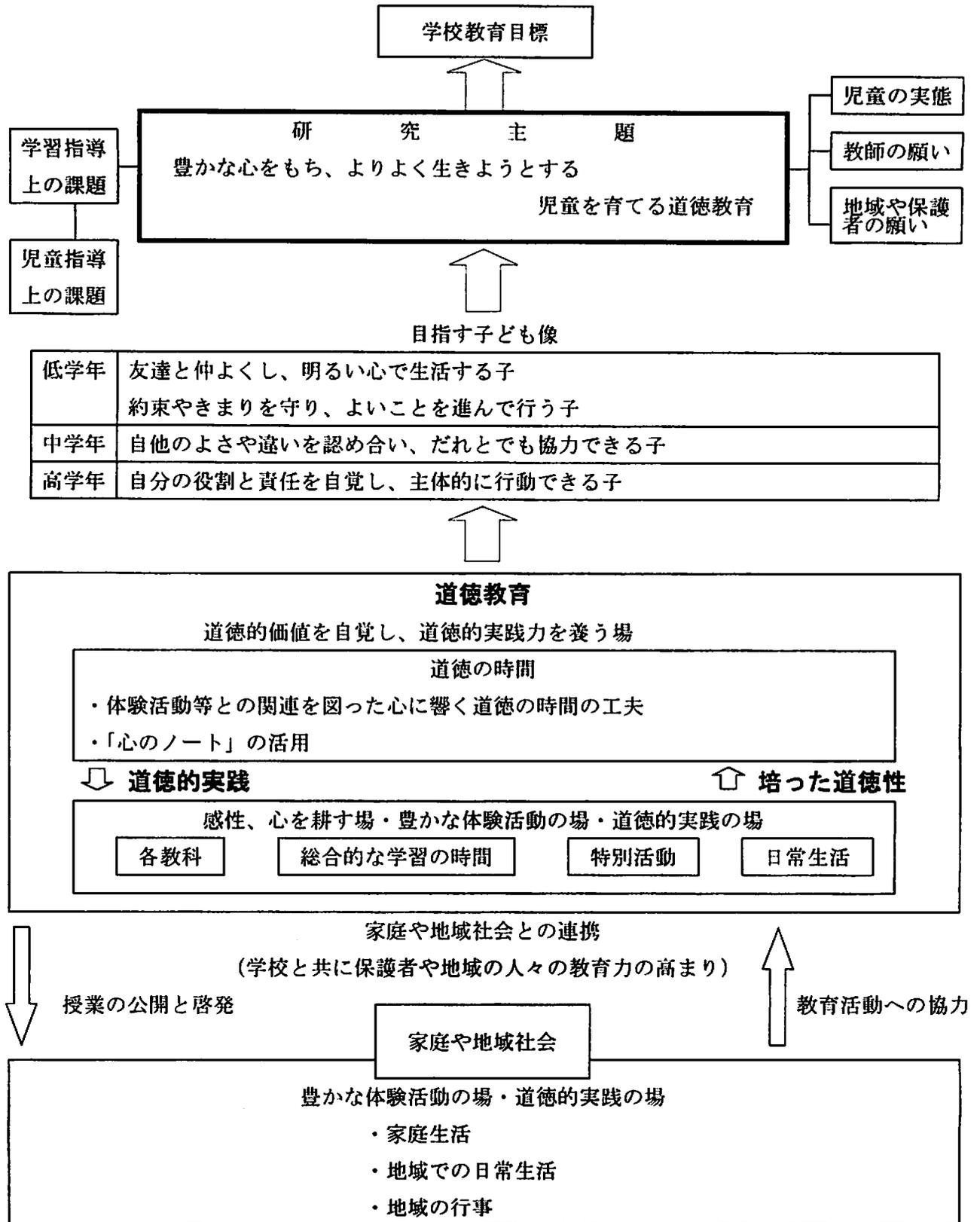
### 4 研究内容

- (1) 体験活動等を生かした道徳の授業の工夫と実践
  - ・指導案形式、記録用紙（教師・児童）の作成と活用
- (2) 体験活動等と道徳の時間における指導とを関連付ける指導計画
  - ・年間指導計画の作成
- (3) 道徳的実践力育成のためのあいさつ運動等の計画
  - ・あいさつ運動の実践
- (4) 家庭や地域社会との連携の観点からの道徳の授業の公開と啓発
  - ・啓発紙の作成（学校だより）
  - ・児童の実態調査（児童・教師・保護者・地域）と結果の集計、公表
  - ・教育講演会の実施
- (5) 「心のノート」の効果的活用
  - ・「心のノート」の活用研究

### 5 研究の組織



## 6 研究の全体構想



## Ⅱ 研究の実際

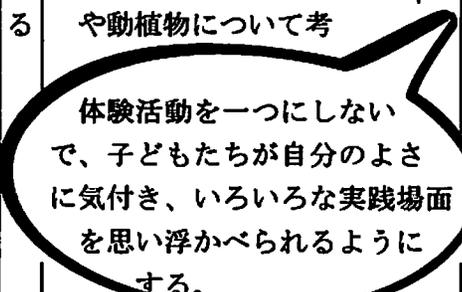
### 授 業 研 究 部

#### 1 道徳の年間指導計画の見直し

- 体験活動等と道徳的価値との関連を図りながら、年間指導計画の見直しをした。
- 年間指導計画の中に、心のノートの活用ページを明記し、計画的に活用できるようにした。  
(資料参照)

#### 2 基本的な指導案形式の研究

- 授業研究部で基本の形式を考え、その後、改善していった。  
指導案展開例(抜粋) 3年 自然の大切さ 「ホタルの引っこし」

過程	学 習 活 動	時間	○主な発問・予想される児童の反応 ◎中心発問	教師の支援 ☆研究主題との関連
気 付 く	1 美しい自然やホタルの写真をみる。	3	○ここにある写真を見て、どう思いますか。 ・きれいだな。 ・こういう所に行ったことがある。 ・ホタルだ。	・美しい自然の写真を提示し、資料への関心を高める。 ・ホタルが住んでいる場所について確認する。
深 め る	2 資料「ホタルの引っこし」を読んで話し合う。  (1) 川の水がきれいだったころのホタルの様子を考える。	25	○川の水がきれいだった4、5年前には、ホタルはどんなふうに暮らしていたと思いますか。	・ホタル気持ちを考えながら話を聞くようにさせる。 ・川に悪い水が流れてくる前のホタルの様子を想像させることで、次
見 つ め る	3 写真を見ながら、川の探検をしたときのことや生き物を育てたことを振り返り、身近にある自然や動植物について考   体験活動の一つにしないで、子どもたちが自分のよさに気づき、いろいろな実践場面を思い浮かべられるようにする。	15	○川の探検をしたときのことや、生き物を育てたときのことなどを思い出しながら、身近にある川や生き物について考えたことを書きましよう。 ・いつまでも魚たちが住んでいられるように、川にごみを捨てないようにしたい。 飼っているメダカの世話をきちんとやる。	☆総合的な学習の時間に探検した川の写真を見せ、その時の体験を想起させる。 ・今まで自分たちが自然や生き物を大切にしていたことに気付かせたい。 ・自分の考えをワークシートに記入させる。

#### 3 授業記録の作成と活用

- 教師の支援や児童の活動を詳細に記録したため、事後の授業研究会等で、発問が適切であったか、児童の反応に的確に対応できたかなどを検証することができた。また、授業者の気付かない児童のつぶやき等も記録するため、児童のよさを知る上で役に立ち、学級経営にも生かすことができた。

#### 4 体験活動等との関連を図った授業の展開

- 体験活動等との関わりを考えながら、そのときの自分や相手の気持ちを思い浮かべられるように資料や発問を工夫し、心に響く授業の展開に努めた。



1年生  
学校探検

「がっこうたんけんて」  
(感謝)

学校探検では、校内のいろいろな場所を興味深く見てきた。教室の水道を直して下さった技能員さんや、給食配膳員さんなど、自分たちのために働いて下さっている人たちに感謝の気持ちを持つことができた。



4年生  
養護学校とのゲーム交流

「ひろこさん」  
(思いやり・親切)

交流を通し、共に生きる人間として助け合っていくことの大切さを学んだ子ども達。事後に指導した「ひろこさん」では、障害のある人に対する人々の偏見に怒りさえ覚えた。同情ではない本当の優しさとは何かを考えることができた。



6年生  
児童会の縦割り班活動

「幸せをおくるリーダーに」  
(役割と責任の自覚)

1～6年を縦割りにしたレッスンの5のグループ。6月に実施した「なかよしランド」では、リーダーシップを発揮し、上手にチームをまとめることができた。その後指導した「幸せをおくるリーダーに」では、そこで体験が生かされ、さらに自覚につながったようである。

#### 5 心のノートを活用

- 日常の生活体験や体験活動を生かした道徳の授業中、あいさつ運動や遠足などの学校行事の前後、学級活動や朝の会、帰りの会などで「心のノート」を活用したり、道徳の授業後に家庭で保護者に記入してもらったりして、子どもたちが道徳的価値についての自覚を深められるよう活用の工夫をした。

[心のノート活用例]

学年 題材名	心のノートの活用場面	児童の記録	成果
2年 きつねとぶどう (家族愛)	[P66] 事後、家庭で、家族の役にたった事を記入した。		家族のためになるお手伝いを探そうという気持ちが出てきた。保護者からも「お手伝いを喜んでするようになった」という話があった。
5年 いつも全力で (不とう不屈、希望、勇気)	[P14] 終末で、自分の夢や希望について記入し、発表し合った。		今まで夢など考えたこともないという子どももいたが、これを機会に夢について考え、それに向かってがんばろうとする意識が育った。

#### 6 成果と課題

##### (1) 成果

- ・ 体験活動等を洗い出し、道徳の時間とねらいレベルでの価値の関連を図ったことにより、児童がより深く考えられるようになった。
- ・ 「心のノート」の活用を図ったことにより、児童がこれまでに行ってきた道徳的価値に迫る行いを具体的にイメージでき、道徳的実践力へと結びつきやすくなった。

##### (2) 課題

- ・ 「心のノート」の効果的な活用についてさらに研究を進める。

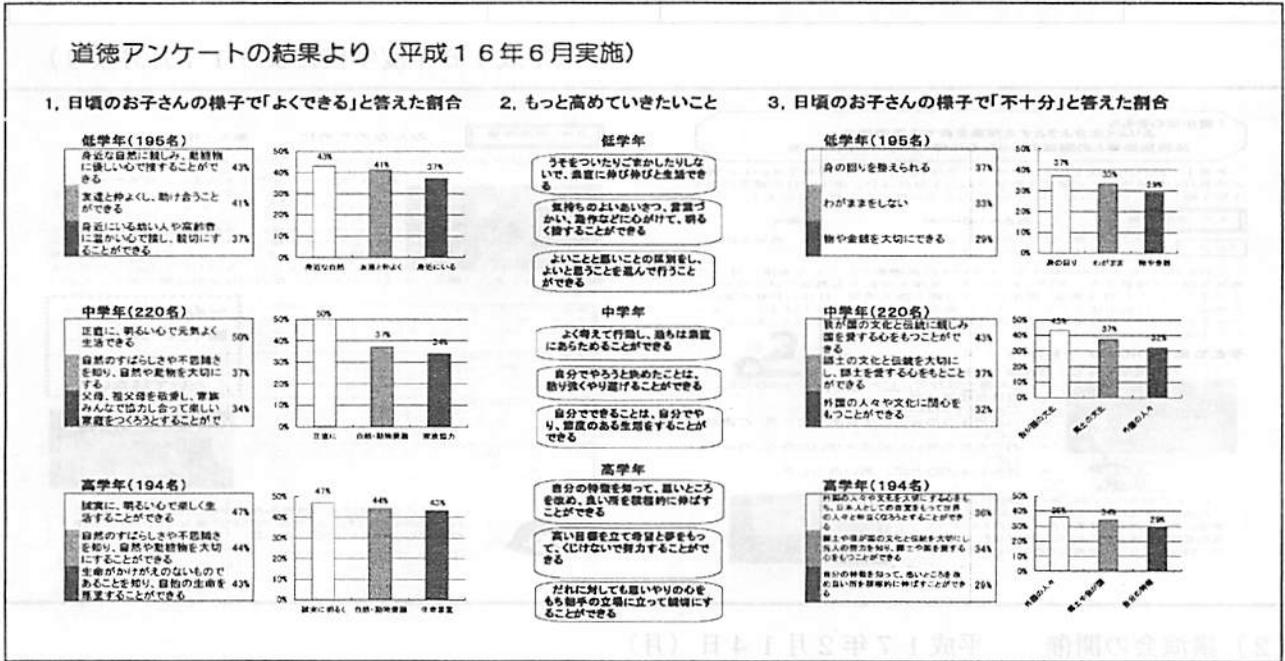
# 調査啓発部

## 1 アンケートの実施 (平成16年6月)

### (1) 課題把握

児童の実態を把握するために低学年、中学年、高学年別に道徳の価値が全部網羅されているアンケート用紙を用意し、保護者、地域の方々、教師を対象にアンケートを行った。その結果をふまえて、低学年、中学年、高学年の重点目標を定め、実践への方向づけをした。

(保護者のアンケートの結果 平成16年度学校だより9月号より抜粋)



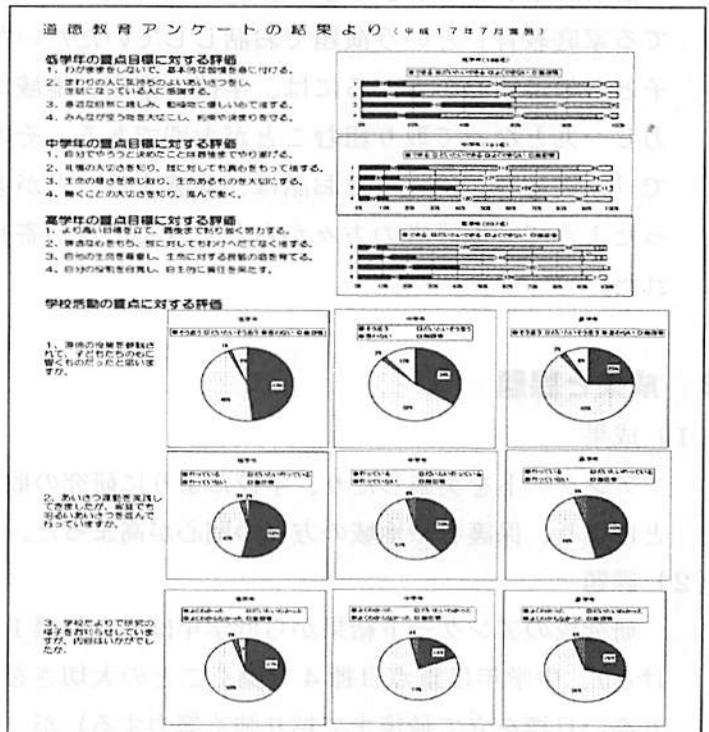
### (2) 取り組みの結果 (平成17年7月)

昨年度から約1年間にわたる取り組みの成果を明らかにするために、重点目標と学校の取り組みという2つの内容に絞り、低学年、中学年、高学年別のアンケート用紙を用意し、保護者、地域の方々を対象にアンケートを行った。

アンケートの結果をもとに取り組みのまとめをするとともに、これからの指導の指針を見出した。

(平成17年度

学校だより9月号より抜粋)



## 2 保護者や地域への啓発

### (1) 学校便りによる啓発

本校の道徳教育に関する取り組みを保護者を始め地域の方々に理解して頂くため、学校だよりの裏面に研究授業の様子やアンケートの結果などを掲載した。

平成16年度 学校だより		平成17年度 学校だより	
9月号	アンケートの結果	6月号	平成16年度の取り組みについて
11月号	研究授業(1年、6年)	7月号	研究授業(2年、4年、5年)
12月号	研究授業(3年、5年)	9月号	アンケートの結果
3月号	研究授業(2年、4年)		

(平成16年度学校だより11月号より)

**「豊かな心をもつ、よき人生をしようとする児童を育てる道徳教育」**  
体験活動等との関連を軸に心に響く道徳の時間の工夫

非道小中学校は、平成15・16年度、文部科学省より「児童生徒の心に響く道徳教育の推進事業」の研究実施指定され、11月1日、第1回目の研究授業を1年1組と5年2組で行いました。そのときの様子を写真とともにご紹介します。

**1年 道徳授業** **あかいボール** (勇気)

よいことと悪いことの区別をし、よいと思ふことは、勇気を出して行おうとする気持ちを育てる。

よいこと  
よいことと悪いことの区別をし、よいと思ふことは、勇気を出して行おうとする気持ちを育てる。

このお話は、主人公の女の子が、小さい子に真似をして遊んでいる友達に対して、勇気を持って注意する、というものです。友達を注意する勇気だけでなく、ゴミが落ちていたら拾う勇気、車道を歩かずに横断歩道を渡る勇気、自分の意見を言う勇気など、日常生活でのいろいろな勇気について取り上げました。そのノートを使って、日常生活の中での体験から、自分の勇気について考えることができました。

**子どもたちの心のノートから**

～勇気をもって、がんばりよいことをしたよ～

- ＊ でん車のなかで、にんしんちゅうのかたに、せきをゆすった。
- ＊ ごみをいっぱいひろってすてた。
- ＊ じぶんがよつらちゅうに手をあげたとき、どきどきした。
- ＊ おともだちをいじめた子がいたから、ちゅういした。
- ＊ さんじょうのひとに、あいさつした。

正しいと思ったことは、周りの状況に誘われることなく、勇気を出して行って欲しいと思っています。勇気を出して行おうとするのは、子どもによってそれぞれ違いですが、よいことをするわけですから、勇気を持って、挑戦してほしいと思います。

**5年 道徳授業** **みんなのために** (勤労・社会奉仕)

「わが国」人のために役立つことを、進んでしようとする気持ちを育てる。

社会に役立つことができるようになるためには、働くことが自分のためだけでなく、社会生活を営むものであることを学ぶためにこの授業を行いました。

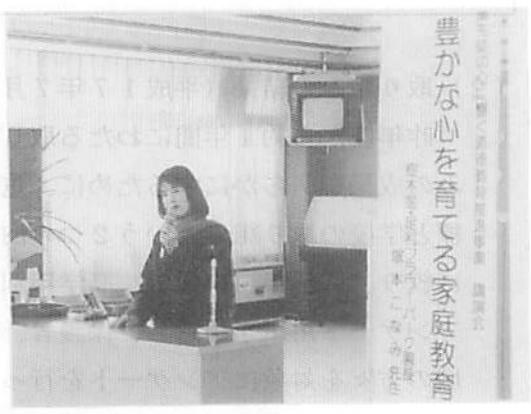
それまでの経験に、運動会の係活動を行ったときのことを思い出しながら、集団の中で役割を果たした場面やできなかった場面の気持ちを発表していただきました。友だちのいいところや考えを聞くこともでき、「働く」とはどんなことなのか自分の言葉で表すことができてきました。

～心のノートより～  
働くということは、自分のためにだけではない

働くことのすばらしさをみんなが感じてくれました。これからの生活でも、人(社会)のために進んで働く喜びや誇りを感じてほしいと思います。

### (2) 講演会の開催 平成17年2月14日(月)

樹木医塚本こなみさんをお招きして、「豊かな心を育てる家庭教育」という演題でお話ししていただいた。子どもの道徳心を育てるには、学校、家庭、地域が協力し一丸となって取り組むことが大切である。その中で「家庭教育」に絞ったお話は、共感することが多かったようで、保護者の方々からたくさんの声が寄せられた。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

アンケートを実施したり、学校だよりに研究の取り組みや研究授業の様子を掲載したりすることにより、保護者や地域の方々の関心が高まった。

### (2) 課題

研究校のアンケート結果から低学年は重点目標1(わがままをしないで基本的な習慣を身につける)、中学年は重点目標4(働くことの大切さを知り進んで働く)、高学年は重点目標1(より高い目標を立て最後まで粘り強く努力する)が、まだ不十分だったので、今後も引き続きこれらの項目に力を入れて指導していく必要がある。

## 実践活動環境部

### 1 あいさつ運動

#### (1) 目的

あいさつの大切さを知り、元気にあいさつができるようにする。

#### (2) 実施期間・日程

平成16年10月4日(月)～10月22日(金) 7:55～8:15

平成17年3月11日(金)～3月17日(木) 7:55～8:15

※ 6年生の卒業記念活動の一環として、6年生が自主的に「あいさつ通り」に立って行った。

平成17年6月13日(月)～6月28日(火) 7:55～8:15

平成17年10月4日(火)～10月21日(金) 7:55～8:15

平成18年3月中旬(予定)

#### (3) あいさつ運動の内容

- ① 西門から南門までの通り(下図参照)を「あいさつ通り」と命名し、あいさつ運動を行う。「通り」には児童手作りの看板で表示し、児童の意識を高める。



あいさつ通りの看板

## あいさつ運動

10/4(月)～10/22(金)

「あいさつ通り」  
できました!

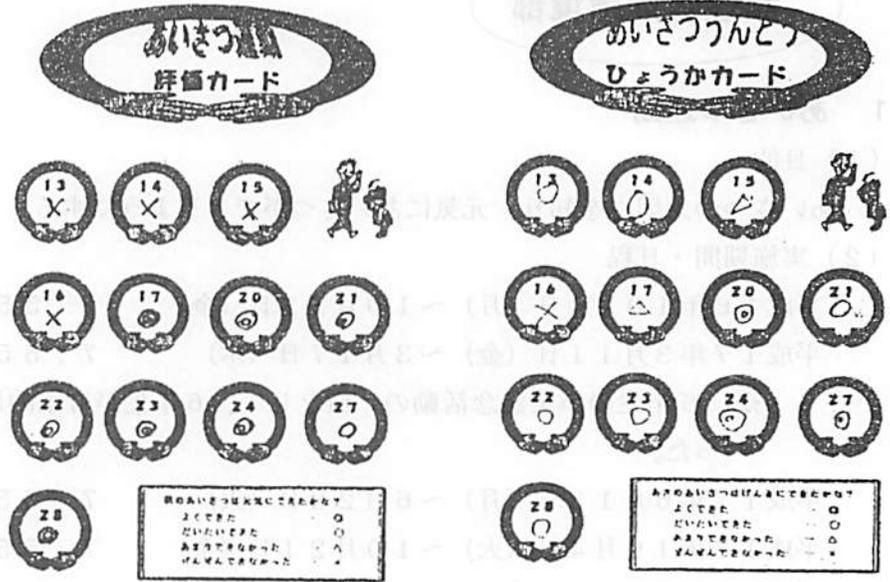


- ② 3年以上の各クラス児童と担当教師が期間中、あいさつ通りに立ち、登校する児童とあいさつを交わす。
- ③ 各クラスで、あいさつカードを用いて自己評価させる。(次頁参照)
- ④ 各家庭にもお願いして、家でもあいさつを励行し、保護者の評価と自己評価をしてもらう。(次頁参照)



あいさつ運動の様子

○自己評価カード（学校用）



○評価カード（家庭用）

あいさつカード

あいさつカード

よくできた○			だいたいできた○			あまりできなかった△			全然できなかった×		
日	日記	写真	日	日記	写真	日	日記	写真	日	日記	写真
6/13	○	○	6/19	○	△	6/25	○	○			
6/14	○	○	6/20	○	○	6/26	○	○			
6/15	○	○	6/21	○	○	6/27	○	○			
6/16	○	○	6/22	○	○						
6/17	○	○	6/23	○	○						
6/18	○	△	6/24	○	○						

☆おはよう、おやすみ、いってまいります、ただいま、いただきます、ごちそうさまなどのあいさつを総合して評価してください。

よくできた○			だいたいできた○			あまりできなかった△			全然できなかった×		
日	日記	写真	日	日記	写真	日	日記	写真	日	日記	写真
6/13	○	○	6/19	○	○	6/25	○	○			
6/14	○	○	6/20	○	○	6/26	○	○			
6/15	○	○	6/21	○	○	6/27	○	○			
6/16	△	○	6/22	○	△						
6/17	○	○	6/23	△	○						
6/18	×	△	6/24	△	△						

☆おはよう、おやすみ、いってまいります、ただいま、いただきます、ごちそうさまなどのあいさつを総合して評価してください。

(4) 指導内容

- ① 事前に、「心のノート」の活用などを通して、あいさつの大切さについて学習するとともに「あいさつ運動」について各クラスで周知させ、元気にあいさつができるよう指導する。
- ② 担当のクラスでは、あいさつの仕方を具体的に指導する。
  - ・相手の目を見て、聞こえる声の大きさであいさつするなど
- ③ 期間中、朝の会等で元気にあいさつができたかを自己評価させる。

2 奉仕活動

(1) 目的

働くことの大切さに気づき、進んで社会のためにつくそうとする態度を養う。

(2) 実施期間・日程

平成17年11月 7:55~8:15

(3) 奉仕活動の内容

北郷小学校南の通りの歩道に散った落ち葉を掃除する活動

(4) 参加者 3年生以上の児童ボランティアと教師

### 3 関連する主な体験活動

#### (1) 生活科・総合的な学習の時間

- ・ 保育所との交流

きた保育所生が喜ぶような遊びやゲームなどを考えたり、話し合ったりして会を開く。

- ・ 獣医師との連携

獣医師の連携を図りながら、ウサギに触れさせたり、心音を聞かせたりする。

- ・ 足利中央養護学校との交流

各学年の発達段階の応じて、集会や遊びなどを行い、心身に障害のある子供たちと交流する。

- ・ 川を中心とした地域の自然を調べる活動

月谷川・田島川の水質や流れの様子、周辺の生き物、植物等調べながら自然に親しむ。

- ・ 地域の史跡を調べる活動

地域の寺院、神社、碑などを調べ、地域の歴史に触れる。

- ・ 福祉体験

アイマスク体験、車いすの操作・介助、点字体験等を通して、体の不自由な人の心情に触れる。

#### (2) 児童会活動

- ・ レッツ5

5の付く日を中心に、6年生がいろいろな遊びを考え、昼休みをに下級生と遊びながら交流を深める。

- ・ なかよしランドにレッツ郷

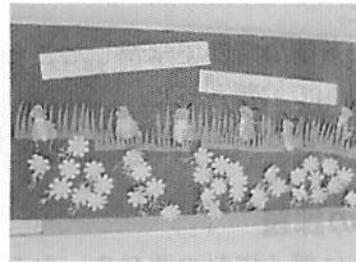
代表委員会で企画し、縦割り班で運営するゲームコーナーを設置し、地域の高齢者、地域の方、保育所・幼稚園の子供達などを招待して、交流の大集会を行う。

- ・ ありがとう集会、6年生とのお別れ会など

### 4 掲示計画

#### (1) 授業研究の内容と児童の様子の掲示

#### (2) 「心のノート」を活用した掲示物の工夫



「心のノート」を活用した掲示

### 5 成果と課題

#### (1) 成果

- ・ 同じ時期にすべての学級であいさつの指導をすることによって、期間中、あいさつ通りで元気なあいさつが交わされた。
- ・ あいさつ運動の時間外や「あいさつ通り」以外でも「おはよう」「こんにちは」のあいさつをする児童が多くなってきた。
- ・ あいさつ運動の体験を道徳の授業に生かすことで、さらにあいさつへの意識が高まった。
- ・ 道徳教育上のねらいと関連する体験活動を洗い出し、資料との関連を位置づけることによって、相互の関わりを意識しながら活動に取り組むことができた。

#### (2) 課題

- ・ あいさつ運動の期間外や校外でのあいさつについて地域、家庭と連携し、さらに継続的に実践していく必要がある。

### Ⅲ 研究の成果と今後の課題

#### 1 研究の成果

##### (1) 児童の姿から

- ア 体験活動等を生かした道徳の授業を実践することにより、そのときの自分の気持ちを思い出しながら、考えを深めている様子が見られるようになった。
- イ 作業用紙への書き込み、役割演技、動作化などの中で自分の気持ちを素直に表現している姿が多く見られるようになった。
- ウ あいさつ運動での体験を道徳の時間に生かして指導したり、あいさつ運動を進めたりすることで、あいさつへの意識が高まり進んで実践する児童が増えた。

##### (2) 教職員の姿から

- ア 学校行事や総合的な学習の時間等の体験活動等を道徳の内容項目からとらえ、計画的に指導する方向が見えてきた。
- イ 校内研修を計画的に実践することにより、全教職員が学校教育における道徳教育の果たす役割を再認識した。日常の教育活動においても、子どもの心の問題について話題にすることが多くなった。
- ウ 学年で道徳の授業研究をすることにより、子どものとらえ方や協力的な授業づくりが進んだ。
- エ 主体的に授業に取り組ませるための指導の仕方や支援の在り方が分かり、授業に工夫が見られるようになった。

##### (3) 保護者の姿から

- ア 道徳の時間の授業参観や学校だよりを通して、児童の道徳性の実態調査結果や道徳の授業の様子を知らせることにより、本校の道徳教育についての理解を深めることができた。
- イ 道徳の時間で学習したことを生かして家庭で実践したり、体験の重要性を理解し、協力してくださった。
- ウ 道徳の授業に関心をもち、授業への参加もしていただけようになってきた。

#### 2 今後の課題

- (1) 心に響く資料の開発や、生き方を考えられる授業の工夫をさらに進めたい。
- (2) 「心のノート」の日常における活用についてさらに実践をしていきたい。
- (3) 体験活動等が道徳の時間に効果的に生かせるように、体験活動等を道徳的価値から毎年見直しをしていく。